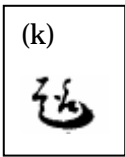










候補の中から組み合わせる




(k)は、の感じから、など「ニヨ





ウ」等の中にという字が入っています。このはよく見ると、第21回や第26回で出てきた「取」という字です。したがって、「ニヨウ」に「取」なので、「趣」という字が思い当たります。





(l)は、最初が「中」か「申」で、次のがポイントとなります。この字は、丸暗記してしまった方がよい字で、「聞」という字です。よく出てきます。の部分、「門」(もんがまえ)にあたります。次のは「候」ですが、次のは、難しいかもしれません。ここで、(l)の前後を見てみると、「持夫の者より申し聞き候、其段...」となります。




これらも参考に読むと、は「ハ、」と書いてある、と考えら

れるのです。繰り返しの「、」がやや大きいですが、他に読み方も見あたりません。まとめると、(l)は「持夫の者より申し聞き候はば、其段...」となります。

(m)は、最初のが、が「言」で、が「青」のようなので、「請」。次のは、(k)で


も出てきた「取」で、この字が「取」なので、最初のも「請」で確信できます。次のは、第32回でも出てきましたが、「書」に見えますが、「事」にも見えます。




次のは、第31回で出てきた「」が「江」かはっきりしない字です。次のは、


一見「虫」や「出」にも見えますが、第34

回でも出てきた (書)にも見えます。最後の

は「入」でしょう。

選択肢が多くなりました。右上にまとめましたが、この候補の中から、意味が通る字を探していくと、「請取書江書入」が、最も自然だということになります。したがって、(m)には「書」という字が崩し方を変えて2回出てくるわけです。

史料 (前略) 兎角當組合之儀、々二而其宿而已申訳相立、跡宿之難儀ヲ不顧かえりみず、右墨付或者紙生地等有之跡宿より申継候 (k)、持夫之者より (l)、其段 (m)、(n)、先宿江右 (o)、跡宿より申継之趣、(p) 差状二 (q)、(r)、(s) 之通可取斗、(以下略)

請取 - 書 -  - 出 - 入
- 事 - 江 - 書
- 虫